

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。平成29年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

ザグレブは「ヨーロッパの最も訪れるべきクリスマス・マーケット」で2年連続で1位になりました。12月のアドヴェント期間には、ザグレブの市内のいたるところでイルミネーションがきらめき、クリスマス・マーケットが開かれました。大聖堂の前ではキリスト降誕の様子が再現されましたが、人形ではなく、キリスト役の赤ちゃんも含めて本物の人間や動物が演じていたのには驚きました。

さて、昨年7月に当地に赴任して以来、早6か月が経ちました。最も美しい季節と言われる夏には、ザダル、スプリット、そしてドゥブロヴニクなどの海岸部を訪れることができました。

この半年間で最も大きな動きは、9月の議会議員選挙とその後の新政権の発足です。10月19日、外交経験が豊富で、国連やEU・NATOの加盟国としての立場を重視しながらクロアチアを率いる46歳のプレンコビッチ首相の下、中道右派のクロアチア民主同盟（HDZ）とMOSTを中心とする新政権が発足しました。新政権の下、本年の予算編成や税制改革などが着実に進められています。

赴任から半年経って改めて思うことは、クロアチアは美しい国だということです。夏の海岸部はもちろん、秋のザグレブ周辺の紅葉、そして12月のザグレブのきらめき、などなど、その美しさに感動しています。

一方で、この半年の間、約300年前のオスマン・トルコの侵略からシニの町を守った人々の努力に由来するクロアチア版「流鏑馬（やぶさめ）」とも言うべき「アルカ」や、内戦時代の犠牲者を追悼する11月18日のブコバルでの行事などに参加しました。そして、これらの体験を通じて、この国が今、平和を謳歌し、多くの観光客を笑顔で迎えることができること背景にある苦しい時代にも思いを馳せました。

新たなプレンコビッチ政権は、好調な観光部門などの経済活動にも支えられ、順調な船出をしました。もちろん、ヨーロッパには、英国のEU離脱や各国で頻発するテロなどの不透明な要素はあります。しかし、現政権は、夏のクロアチアのような輝く活気にあふれているように感じます。

こうした中、在クロアチア日本大使館としては、現政権が進めようとしている国際枠組みの中でクロアチアの経済・社会の活性化を図るとの方針と協調しつつ、日本とクロアチアとの関係強化を図ってまいりたいと思います。

このためにはまず、この美しいクロアチアを多くの日本の皆さんに訪れていただけ

れば、と思います。それ自体がクロアチアの経済にも貢献することになると同時に、併せて、クロアチアの人々に日本人の良さ、日本の良さを印象付けることができれば、と考えており、このための努力をしたいと思います。さらに、観光に止まらずそれ以外の経済活動についても、関係者の方々と緊密な連携を図りながら、対応してまいります。

こうして、人権の尊重や法の支配などの基本的な価値を共有するクロアチアと日本の絆を太いものにしていきたいと思っております。

年頭にあたり、赴任以来の6 か月を振り返りながら、本年取り組むべきことについて、私の思いを述べさせていただきました。皆様のご協力をいただきながら、大使館員全員で取り組んでまいりたいと思っております。

本年もよろしくお願い申し上げます。

2017年1月1日
在クロアチア特命全権大使
瀧口 敬二